富山市定例市長記者会見（令和5年3月1日）

■冒頭

市長

それでは、（共同記者会見に）引き続き、定例記者会見を始めさせていただきます。

■富山市公設地方卸売市場青果棟、関連店舗・事務所棟の供用開始について

市長

富山市公設地方卸売市場では、取扱量の減少や消費者ニーズの多様化などの社会情勢の変化を踏まえ、老朽化した市場施設を、機能的、効率的な施設となるよう再整備を進めてまいりました。

このたび、第Ⅰ期工事として建設を進めてまいりました、青果棟及び関連店舗・事務所棟が本年1月末に完成し、本日、3月1日から、青果部及び関連事業者の皆さまが、新しい市場施設での業務を開始されました。

今回、供用開始となりました市場施設のうち、青果棟につきましては、卸売場をはじめ、仲卸店舗や、商品の温度管理が可能な保冷庫、事務室などで構成する施設となっており、卸売業者1社と、仲卸業者7社が入居され、引き続き業務を継続されます。

次に、関連店舗・事務所棟につきましては、1階は関連事業者や関係団体の店舗の区画となっており、26者が入居されます。また、2階、3階は事務所の区画となっており、青果部及び水産物部の卸売業者や、関係団体の事務所として使用されます。

また、本年8月から、第Ⅱ期工事となる水産棟の建設を行い、令和6年8月の供用開始を予定しております。

この市場再整備事業により、生鮮食料品の鮮度保持機能や物流機能の強化を図り、これからも全国から魅力ある食材を集め、市民の皆さまにお届けしてまいりたいと考えております。

また、密閉型の倉庫となっており、害虫や害を及ぼすような動物の侵入を防ぐことができるようになっておりますので、安全面も格段に向上したと思っております。

■ JR 高山本線ブラッシュアップ春のダイヤ改正における朝便の改定について

市長

本市では、少子高齢化や新型コロナウイルス等の影響により、地方鉄道を取り巻く状況が今後ますます厳しくなることが想定されるなか、全国に先駆けて市、県、JR 西日本で構成する「高山本線ブラッシュアップ会議」を設立し、これまで活性化施策について議論してきました。

このブラッシュアップ施策の一つとして、3月18日（土曜）のダイヤ改正において、朝の速星駅から富山駅間の1往復を、越中八尾駅から富山駅間の1往復に延長運転するとともに、朝の一部の時間帯、6時45分から7時30分の間ですが、越中八尾駅の出発時刻を15分の定間隔として運行いたします。

このことにより、朝のピーク時の混雑の分散化を図るとともに、通勤、通学者の乗車機会の創出、さらには利用者にとってわかりやすく便利なダイヤを設定することで利便性の向上に努めてまいりたいと考えております。

なお、先月開催した「高山本線ブラッシュアップ会議」で、今後の指針となる「高山本線ブラッシュアップ基本計画」が承認されたところであり、今後もJR 西日本などの関係機関と連携を図りながらさまざまなブラッシュアップ施策を展開し、更なる利便性向上や利用促進につなげてまいります。

たいと考えております。

■城川原公園におけるインクルーシブ遊具の完成について

市長

本市が城川原公園で整備を進めておりましたインクルーシブ遊具の整備が完了し、3月10日（金曜）午前9時から、市民の皆さまにご利用いただけるようになりますのでお知らせいたします。

インクルーシブ遊具とは、障害のある子どもも障害のない子どもも、みんなと一緒に遊ぶことができる遊具です。

今回、城川原公園では3種類の遊具を整備しました。一つ目としては、介助者や友達と一緒に滑ることができる幅の広い滑り台や、車椅子のままでも遊ぶことができるパネル遊具などを備えた複合遊具です。二つ目は、体幹の弱い子どもでも安心して座ることができるシート付のブランコ、三つ目に、車椅子のままでも砂で遊ぶことができるテーブル式の砂場です。

本市が管理する公園では、インクルーシブ遊具の整備は初めてとなります。次世代を担う子どもたちが、障害の有無にかかわらず、共に遊ぶことができる利用環境を整えることで、誰もが相互に人格と個性を尊重し、支え合い、人々の多様なあり方を相互に認め合える共生社会の実現に寄与するとともに、子どもの成長や教育面など多様な効果が期待できるものと考えております。

多くの方々に、楽しんでいただきたいと思いますので、ぜひ遊びに来てください。

■科学博物館プラネタリウムのリニューアルオープンについて

市長

科学博物館のプラネタリウムにつきまして、令和4年10月から休止し、更新作業を行ってまいりました。この3月16日（木曜）正午に、リニューアルオープンいたします。

今回のリニューアルでは、1億個もの星が映し出せる光学式投映機と最新のデジタル映像システムを導入することで、美しい星空の再現と、宇宙の詳細な描写が可能となります。さらにホール内のステージを広げることで多目的な活用がしやすくなり、さまざまなイベントが開催できるようになります。また、観覧席についても、親子など2人連れの観覧者が一緒に座れる座席や、寝ころぶことでリラックスした姿勢で見られる座席、スペースを新設しています。

あわせて、プラネタリウムがある3階の天文展示室もリニューアルし、惑星表面での重力の違いを体験できる展示や、その時期ごとの星座などを解説するコーナーなどを設置します。

なお、3月16日の午前中には、地元保育園の子どもたちも招いたリニューアルオープン式典を開催いたします。

ご観覧いただいた先着約2,500人の方にはリニューアルオープン記念のクリアファイルをお配りする予定です。新しくなったプラネタリウムと天文展示室を、多くの皆さまにご観覧いただければ幸いです。

■ 質疑応答

記者

昨日、国から発表があった出生数は、統計開始以降初めて80万人を割り込み、少子化のスピードが一段と加速し、大きな問題になっています。国では、こども家庭庁が4月に発足するように、子育て世代の支援や、若者の婚姻数が減っていることへの対策が急務となっています。

そこで、少子化をめぐる市の現状についての認識と課題、今後、市として取り組んでいきたいことについて、市長の考えをお聞かせください。

市長

ご質問のとおり、我が国の少子化のスピードは一段と加速しており、年

間 80 万人を割り込んだことは、非常にショッキングなことであります。

本市でも、これまで子育て支援策の充実に努めてまいりました。本市の合計特殊出生率は、平成 17 年の 1.35 から年々上昇基調を維持し、令和元年には 1.54 となりました。しかし、新型コロナウイルス感染症の影響もあり、近年は低下傾向（にあり）、令和 3 年は 1.43 となっております。

こうした状況を鑑みますと、本市におきましても、当面、出生数自体の改善には、大変厳しい状況が続くものと考えております。

本市としての取組につきましては、先日、令和 5 年度当初予算案でも発表させていただいたところですが、予算編成の重点施策の一つとして「出産・子育て環境の充実」を設定し、予算を重点的、効率的に配分したところです。

具体的には、LINE 等を活用した子育て支援に関する情報発信の強化や、多胎妊娠の妊婦健康診査の支援などに新たに取り組むこと、子育て支援センターを 1 カ所増やすなど、出産・子育て環境の更なる充実に努めたところであります。

また、婦中地域を中心として、婚活をサポートする協議会が設立されたところであり、本市としましては、この団体とも連携しながら、婚活の支援に取り組んでまいりたいと考えております。

現在、国においては、「こどもまんなか社会」の実現に向けて、4 月に、こども家庭庁を新設するなど、子ども子育て政策を最重要課題と位置付けられています。今後、具体的な施策が発表されてくると思われまますので、国の動向も注視しながら、国の取組にしっかり呼応してまいりたいと考えております。

やはり、少子化に歯止めをかけるには、子育てについて社会全体の意識を変えていくことが重要であると考えておりますので、引き続き、子どもを産み育てることの素晴らしさを若い方々に伝えたり、それぞれの発達段

階に応じて、小学生、中学生、高校生を含めて教育の中で、家族の大切さ、結婚の素晴らしさ、子育ての素晴らしさなどを伝えていくことが大事なのではないかと感じております。

我々の世代もそうなのですが、諸外国の先進国に比べると、子どもの支援に関する国費の予算の割合は非常に少ないわけです。欧米などの諸外国や先進国は、税金も高いですが、子ども子育て支援や福祉政策が非常にしっかりしています。いただくもの（税収）と社会保障の充実というのはセットであります。このような議論も、しっかりと皆さまと進めていくような段階になっているのではないかと考えています。

記者

科学博物館に関連して伺います。先日、地元から、天文施設の整備について要望が出されました。今回の（令和5年度）予算案にも科学博物館の展示更新計画策定事業費が盛り込まれていますが、天文観測施設の整備に関して、市長の考えをお聞かせください。

市長

古洞にあった天文台は廃止しましたので、現在の科学博物館の場所（隣接する城南公園）に（整備してほしい）という要望を教育委員会に出されたというように認識しております。天体観測施設については、科学博物館の今後の方向性として、どのような施設が必要になってくるのか、どういったリニューアルをしていくのかということ、来年度の予算で計画を作っていきますので、その中の一つとして、その必要性の有無も含めて、しっかりと計画していきたいと思っています。

我々の肉眼で見るとということも一つですし、現在、デジタルが非常に発達していますので、(以前のよう)大きな天文台が要るか要らないかということも含めて、専門家の皆さまがその中(計画策定の中)で議論されて、一つの計画にまとめ上げられるものだと思います。ですから、わかりやすく言えば、これからの議論だということです。

記者

来月に県議選が迫っている中、各立候補予定者の事務所開きが続々と行われており、市長も直接あいさつに行くことや、応援のメッセージを送られることがあるかと思いますが、例えば富山市内の自民党系の議員は全て応援されるのか、その辺のスタンスをお聞かせください。

市長

私が市長選に出馬するにあたって、推薦、応援していただいた政党、人物を応援しようと思っています。選挙でご恩を受けたのでご恩をお返しする、そういうスタンスです。

記者

人物というと、政党以外にもいらっしゃるということでしょうか。

市長

人物と言いますか、現在、富山市長の立場ですから、例えば連合富山なども含めて幅広い団体にお世話になっていきますので、そのような方々の支援される方も含めて、その方と自分との関係も考えながら、応援したいと思っています。

記者

自民党系の議員に対しては、皆さんにあいさつに行かれるか、何か応援のメッセージを送られるのでしょうか。

市長

そうです。必ず1回は、応援に行きたいと思っています。

記者

応援に行かれるということですか。

市長

はい。

記者

先月 8 日に、富山市議会の政務活動費関連の訴訟の高裁判決がありました。原告、被告双方ともに上告しないということで判決が確定しましたが、判決確定を受けて、自民党会派が法務局に預けている供託金を受け取るかどうかということも含め、今後の対応を教えてください。

市長

今ほどおっしゃられたとおり、判決が出ましたので、判決に従いまして肅々と、(法務局に預けられている) 供託金をもらい受ける(市への還付請求を行う) こととなります。判決どおりです。

※発言内容を一部整理して掲載しています。・・・富山市広報課